

友人経営者が「社長のごとく」で「人」を「育て」る時、「愛」に重きを置く。

“人を育てる”

人を育てるには氣の遠くなるような年月が「いる」でしょう。そして、ど人好に優しくても貴方のことを平気で裏切るものもいます。……それでも人を育てる者としての、貴方の優しさが必要なのです。貴方が愛情を持って言い続けても、貴方の部下は貴方をうるさがり、貴方を受け容れたいのもしません。……それでも愛情を持って言い続けるのです。貴方がようやく育てたと思った途端、貴方の部下は途中で辞表を出したり、実際辞めたりするでしょう。……それでも諦めずに次の人を育てるのです。貴方が「い」を注いで指示しても貴方の部下は無責任な氣持ちで「聴」いていないのもしません。言っても言っても効果が無いように思うでしょう。……それでも根氣よく指示をするのです。

貴方は今で自分は本氣で人を育てたが、いつも裏切られてばかりで、もうこれ以上傷つくのは嫌だと思っているのもしません。……それでも人を育てる者として、傷つくことから逃げてはいけません。人を育てるには、お金も掛かり時間も掛かる。その割には所利効果が無いからもうやめようと思っているのもしません。

……それでも諦めず人を育てる者として、お金も掛け、心も掛け、時間も掛けるのです。二人は人手不足の時に人を育てる余裕はない。氣持ちはあるけど「表」に響くから出来はない。どう貴方は思っているのもしません。……それでも人の育成を優先するのです。坦言で「駄目な自分」を「駄目な自分」に諦めずに育て続けて「人」は育ちます。丹精込める……全ての生き物はどうも育てられます。

平成七年十月 香川 湧慈 拜